

1. 研究課題名:

「胸腺髄質の無差別遺伝子発現とサイトカイン制御によるT細胞再教育:自己免疫疾患治療の新戦略」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 徳島大学 疾患ゲノム研究センター センター長 高濱 洋介

2-2. スイス側研究代表者: バーゼル大学 小児病院/同大学 生命医学研究所

教授 Georg Andreas Peter Hollander

3. 総合評価: (S)**4. 事後評価結果****(1)研究成果の評価について**

本研究交流の期間内に優れた研究成果を共同研究成果として発表するに至っている。また、双方がそれぞれ独自の成果についても十分に論文発表を行っている。研究方法や目的は日本—スイス双方の研究チームで基本的に同じであるが、双方がそれぞれ開発した有用な遺伝子操作動物や最先端機器を相互に利用し、時間と経費を節約し、より効果的に目標の達成を目指した点は評価される。mTEC の成熟と Aire 発現に伴う遺伝子プロファイルの途中経過が報告されていれば、共同研究の成果がより引き立ったと思われる。通常行なわれている異分野グループ間や異なる技術を有するグループ間による共同研究とはやや趣を異にするが、日本—スイス双方が効率的に研究成果を挙げている点は高く評価される。一方、自己免疫疾患に有効な新規治療法の確立の実現性が不確かな段階において、“計画以上の成果があった”とする自己評価には若干疑問も残る。

(2)交流成果の評価について

スイス側の広い人的ネットワークが有効に利用されて、これが研究促進に寄与している。相互訪問など本研究交流内容に特化された意見交換や訪問が数多く図られている。双方の訪問が大学院生等の若手研究者レベルで実施されれば、もっと将来性のある研究交流に繋がると思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究交流における研究成果は充分かつ相互補完的であることが示されている。あえて改善点を挙げるとするならば、若手の参加がもっと多いことが望ましい。